

APP 環境新聞

発行日 2022年12月27日

発行者 エイピーピー・ジャパン株式会社



APPは持続可能な開発目標 (SDGs)を支援しています。



森の再生プロジェクト ~いっしょにSDGsに取り組もう!~ 活動報告<5>

エイピーピー・ジャパン株式会社 (APPジャパン) は、売上の一部をベランタラ環境保護基金 (ベランタラ基金) に寄付してインドネシアの自然林を再生する「森の再生プロジェクト~いっしょにSDGsに取り組もう!~」を行っています。

皆さまの温かいご支援のもと、ギアム・シアク・クチル=ブキット・バトウ (GSK-BB) 地区で始めた本プロジェクトは、2年半をかけて順調に進展してきましたが、次の段階としてAPPの管理地域外の森林再生に着手します。そして、周辺の森林地域を管轄するリアウ州森林管理事務所と協議し、GSK-BB地区の南に位置するリアウ州シアック県ミナス郡ランタウ・ブルトウアの42haを新しいプロジェクト実施エリアとすることに決定しました。この地はスマトラゾウの生息域でもあります。すでに同エリアを管理するリアウ州環境林業局と今後5年間の植樹協力協定を交わし、今年10月から、絶滅の恐れがあるマラッカジンコウ (沈香木) やマホガニー、インドネシアで食されるパラミツ、ネジレフサマメ等、16種9,210本をタウラ・スルタン・シャリフ・ハシム地区の約18haに植樹しています。



リアウ州環境林業局との現場視察

森の再生には、メンテナンスも欠かせません。今年2~3月には、第2期植樹エリア (10ha・2021年10~11月に実施) の最初の観測とメンテナンスを行いました。観測時には、成長具合の確認の他、成長を妨げる余分な雑草の除去や追肥を行い、枯れてしまった苗を植え替えます。観測に続いて、リアウ州立大学のインターンシップ生3名が参加した植樹評価分析も行いました。分析は森の再生状況を評価するために行われ、そのデータは本プロジェクトによる炭素ストックの試算にも使用されます。(次号に続く)



評価分析の様子

プロジェクトの進捗状況 (2022年10月時点)

フェーズ	植樹実績-期間	植樹本数	メンテナンス植替え本数	面積(ha)
テスト	2020年9月	33		
1	2020年12月 - 2021年1月	2,500	400	5
2	2021年10月 - 2021年11月	5,000	確認中	10
3	2022年5月 - 2022年6月	6,000	未着手	12
4	2022年10月 - 継続中	確認中	未着手	18
合計		13,933		45

「森の再生プロジェクト」対象製品に特殊紙・UP製品が追加されました

「森の再生プロジェクト」の対象製品に、新たに耐油紙やクラフト紙などの特殊紙が加わりま

す。これで、APPジャパンが日本で販売しているほぼ全製品がプロジェクト対象となります。また、APPジャパンの姉妹会社であるユニバーサル・ペーパー株式会社 (UP) が取り扱っているティッシュ、トイレトペーパー、キッチンタオル、ペーパータオルなどの家庭紙 (一部PB品は除く) も対象となることが決定し、プロジェクトの輪はますます広がっています!



ティッシュ・家庭紙 (UP 製品)



ペーパータオル (UP 製品)



耐油紙 (APP ジャパン製品)

APP持続可能性担当役員 国際会議に登壇



2022年11月6日~20日に第27回気候変動枠組条約締約国会議 (COP27) がエジプトのシャルム・エル・シェイクで開催されました。今回は、気候災害がもたらす損失とその対応が大きなテーマとなりました。

アジア・パルプ・アンド・ペーパー (APP) シナルマスの持続可能性担当役員エリム・スリタバもCOP27に参加し、マレーシア・パビリオンで開催された「アセアン地域での (森林火災がもたらす) 煙害回避のための持続可能な土地利用を促す資金調達・投資の枠組み」と題したフォーラムにおいて、インドネシアの泥炭地における最善管理と森林火災対策への投資とその成果について講演しました。

インドネシア・パビリオンにおいても、「ネットゼロ達成に向けて: ビジネス現場からの緊急提言」と「インドネシア FoLUネットシンク2030*に向けた企業の取り組み」の両フォーラムに登壇し、APPの事例を紹介しました。

*FoLU (Forestry and other Land Use/森林及びその他の土地利用) セクターを、適切な森林管理により2030年までにCO2排出源から吸収源とする政策。

また、同時期にインドネシア・バリ島でG20に合わせてB20 (ビジネスサミット) が開催され、エリムはこちらでもサイドイベントのホストを務めました。

第11回高校生国際ESDシンポジウム インドネシアの森から届くエシカル商品を高校生が研究発表!

11月12日、APPジャパンは第11回高校生国際ESDシンポジウムに参加し、分科会のひとつを担当しました。この分科会には、APPシナルマス本社とUPの関係者、ザフルル・ムターキン駐日インドネシア大使館林業部長、ベランターラ基金事務局長ドリー氏も参加し、筑波大学附属坂戸高校とインドネシアのポゴール農科大学コルニタ高校の7チーム 47名の高校生が、APPのティッシュやコピー用紙を題材に、エシカル消費を喚起するパッケージデザインについて発表を行いました。

発表ではインドネシアの森林管理や野生動物保護への高い関心が示され、PEFC認証の意義を伝える創意工夫などに対し、ゲスト投票により優秀賞が選出されました。そして12月8日、エコプロ2022のAPPジャパン・UPブースで表彰式が実施され、来日したドリー事務局長より坂戸高校の上位2チームに記念の表彰盾が贈られました。3位に入賞したコルニタ高校チームの盾はインドネシアに送付されます。

APPジャパン・UP代表取締役会長のタンは「SDGs達成に向けて有意義な交流ができました。発表に向けて努力してきた生徒の皆さんに感謝します」と述べました。



シンポジウム分科会における製品デザイン発表の様子



エコプロ2022での表彰盾贈呈後の記念写真
(生徒の個人情報保護のためぼかしを入れています)

PEFC 認証のチャンピオン企業に選ばれました



11月1日、APPジャパンはSGEC/PEFCジャパンのチャンピオン企業となることに

同意し、書面を取り交わしました。チャンピオン企業とは、SGEC/PEFC認証制度を支持し、PEFC認証の促進について考え、市場を先導・牽引していくことを期待されている企業です。

SDGsやエシカル消費という言葉が浸透しつつある現在、森林認証製品はますます市場から求められるようになっていきます。当社はビジネス拡大を通じ、PEFC認証品の認知と流通の促進に貢献してまいります。

昨年に続きCDP気候変動 B 評価



APPシナルマスはCDPによる2022年のスコアとして、気候変動 B、森林 B、水セキュリティ B マイナスの評価を獲得しました。

気候変動と森林の評価は、アジア地域および業界平均よりも上か同等のスコアです。世界標準となったCDP評価を参照しながら、今後も取り組みの改善を目指します。

【エコプロ2022】ご来場ありがとうございました

APPジャパンとUPは、12月7~9日にかけて東京ビッグサイトで開催されたSDGs Week EXPO・エコプロ2022に出展しました。今年はブース前面に気候非常事態を訴求する「ティッピング・ポイント*」のパネルを掲出し、ブース内では「森の再生プロジェクト」について掘り下げた展示を行い、3日間で2,000名を超えるお客様にご来場いただきました。

また、インドネシアで同プロジェクトの植樹活動をしているベランターラ基金ドリー事務局長が来日し、プロジェクトに大きな貢献をいただいているお客様に感謝の盾をお渡ししました。

*地球上の気候風土の安定をもたらしてきた大自然が、自力で再生不可能な状態に変質してしまう気温上昇の臨界点(気候転換点)。



ティッピング・ポイントの大パネル



右: (株)PARTNER 代表取締役社長 ワヒド氏
左: ベランターラ基金 ドリー事務局長



インドネシア環境林業省の担当局長も来訪

(株)ダイゲンコーポレーション様のYouTubeでご紹介いただきました

株式会社ダイゲンコーポレーション(以下、ダイゲン)様のYouTubeチャンネルで、APPグループのSDGsの取り組みを取り上げていただきました。

今年8月、ダイゲン様に対してAPPの取り組みを紹介するSDGs勉強会を開催させていただきましたが、その中で特に印象に残った取り組みとして「DMPA(森林火災防止のための地域活性化)プログラム」について詳しく紹介されています。分かりやすくまとめているので、是非一度ご覧ください。 <https://www.youtube.com/watch?v=SxTqwu4oYm8>



森の再生プロジェクト 参加方法

1. 「森の再生プロジェクト」対象の紙製品を購入する
2. 個人・法人等で寄付をお考えの方
→ APPジャパンにご連絡ください (sustainability@appj.co.jp)

APP 環境新聞バックナンバー

こちらよりご覧いただけます
<http://www.app-j.com/topics/1673.html>